

平成19年度労働組合基礎調査結果概要（和歌山県）

1 調査の目的

この調査は、日本全国のすべての労働組合を対象として、労働組合数、組合員数、加盟組織系統等を調査し、組合及び組合員の地域別、産業別、加盟上部別分布等、労働組合の実態を明らかにすることを目的とするものである。

2 調査の対象

この調査の対象となる労働組合とは、国家公務員法又は地方公務員法に規定する職員団体を含むものとする。（ただし、船員法第1条に規定する船員が主たる構成員である労働組合を除く。）

3 調査対象日

調査対象日は、平成19年6月30日現在とし、調査を実施した。

4 結果の概要

(1) 平成19年6月30日現在における本県の労働組合数は、500組合で、前年同期に比べて7組合減、労働組合員数は53,601人で前年同期に比べて1,230人減少した。（第1表）

(2) 県下の主要団体別に労働組合員数をみると、連合和歌山32,656人（239組合）、県地評10,653人（120組合）となっている。

また、適用法規別に労働組合数及び組合員数をみると、労働組合法適用組合が392組合・32,293人、特定独立行政法人等の労働関係に関する法律適用組合が18組合・2,463人、地方公営企業等の労働関係に関する法律適用組合が3組合・356人、国家公務員法適用組合が25組合・1,024人、地方公務員法適用組合が62組合・17,465人となっている。（第2表）

(3) 県下労働組合員の各産業別に占める割合をみると、公務が21.53%と最も高く、次いで、製造業19.82%、教育・学習支援業11.01%の順となっている。

また、県下の主要団体の加盟組合員の各産業別に占める割合をみると、連合和歌山では、公務が27.48%と最も高く、次いで製造業26.69%、運輸業10.98%の順となっており、県地評においては、教育・学習支援業が50.77%と最も高く、次いで公務17.91%、医療・保健衛生14.61%の順となっている。（第3表）

(4) 県下労働組合を地区別にみると、和歌山市に245組合（49.00%）とほぼ半数が存在する。（第4表）また、規模別にみると、29人以下の組合員で構成されている組合が221組合（44.20%）となっている。（第5表）

(5) 県下の労働組合員数の推移をみると、労働組合員数は平成6年以降14年連続で減少している。組合員数が最も多かったのは、33年前の昭和49年で96,171人であった。平成19年の組合員数は、昭和49年と比べて約4万人以上少なくなっている。（第6表）